

JENESYS 2.0**日本教員訪韓研修団****訪問日程 平成 25 年 11 月 12 日 (火) ~11 月 21 日 (木)****1・プログラム概要**

JENESYS2.0の一環として、若手教員 26 名が訪韓し、11 月 12 日から 21 日までの 9 泊 10 日の日程で研修を行いました(団長: 中川君隆 佐賀県江北町立江北中学校 教諭)。一行は、滞在中、教育現場の視察やホームステイ、文化遺産見学を通して、韓国の文化・社会に対する理解を深めました。

※ 「JENESYS2.0」の概要についてはこちら

2・日程**11 月 12 日 (火)**

金浦国際空港より入国

13 日 (水)

上炭小学校、中山高等学校訪問

14 日 (木)

国立国際教育院訪問、宗廟見学、梧琴中学校訪問

15 日 (金)

景福宮見学、木浦へ移動、ホームステイ対面式

16 日 (土)

終日ホームステイ

17 日 (日)

再集合、木浦共生園訪問、文化体験(陶磁器作り、草木染体験)

18 日 (月)

木浦市内見学(儒達山、旧日本領事館)、木浦大学校訪問

19 日 (火)

慶州へ移動、慶州市内見学(国立慶州博物館、仏国寺)

20 日 (水)

釜山へ移動、釜山市内見学(忠烈祠、福泉博物館など)、報告会

21 日 (木)

金海国際空港より出国

3. 写真

	
(日本語) 11月13日 上炭初等学校訪問 (高陽市)	(日本語) 11月13日 中山高等学校訪問 (高陽市)
(母国語) 11월 13일 상탄초등학교 방문 (고양시)	(母国語) 11월 13일 중산고등학교 방문 (고양시)
	
(日本語) 11月14日 梧琴中学校訪問 (ソウル市内)	(日本語) 11月15日 ホームステイ対面式 (木浦大学校) (務安郡)
(母国語) 11월 14일 오금중학교 방문(서울 시내)	(母国語) 11월 15일 홈스테이 대면식(목포대학교) (무안군)

	
<p>(日本語) 11月18日 旧日本領事館訪問 (木浦市内)</p>	<p>(日本語) 11月18日 特別講演 (木浦大学校) (務安郡)</p>
<p>(母国語) 11월 18일 구일본공사관방문 (목포 시내)</p>	<p>(母国語) 11월 18일 특별강연 (목포대학교) (무안군)</p>
	
<p>(日本語) 11月18日 交流会 (木浦大学校) (務安郡)</p>	<p>(日本語) 11月19日 仏国寺訪問 (慶州市内)</p>
<p>(母国語) 11월 18일 교류회 (목포대학교) (무안군)</p>	<p>(母国語) 11월 19일 불국사방문 (경주 시내)</p>

4・参加者の感想

◆印象的だったこと

○ホームステイに関して

- ・国というしがらみを越えて、言葉が通じなくとも人と人は通じ合うことができ、お互いを大切に思うことができるということを強く感じた。
- ・韓国家庭の日常風景を目の当たりにし、家族が幸せをする瞬間は日本も韓国も変わらないと感じた。
- ・家の中でも外でも、常に気を配ってくれた。
- ・ホスト家族の絆の深さや情の厚さに触れ、涙してしまった。
- ・忙しい中でも、日本人をできる限りもてなそうとする姿に感動した。

○学校訪問に関して

- ・韓国では珍しい、心育てることを唱えている上炭小学校のような学校がもっと増えてほしいと感じた。
 - ・日本と韓国の学校の違いを直接見て知ることができ、勉強になった。
 - ・現代の韓国における教育競争の過熱化、ICT教育への取組、そして国家としての教育の歩みなどについて日本と比較し考えるいい機会だった。
 - ・木浦大学校総長の「お互いを知らなければ愛しみも憎しみもない」という言葉が大変印象深かった。
 - ・周りへ配慮する心や、他人を尊重する態度を育てることは日本でも大事なことだと思った。
 - ・離島の小学校の設備がとても充実していることに驚いた。
- 「たとえ羞恥を覚えるとしても、日本統治期もまた我々の歴史の一部であるから記憶する必要がある、植民地から解放されて長い時間も過ぎ感情的よりも理性的に判断できるようになった」という木浦大学校総長の言葉に心を打たれた。
- ・学校訪問を通じて、子どもたちが心豊かで幸せな人生を送るために必要な私たち教師の指導の在り方を深く考えることができた。

○韓国の学生・教育に関して

- ・学生同士が社会に適応するため常に「競走」している教育傾向があると感じた。
- ・学生、生徒たちがそれぞれ自信をもって自分たちに接してくれた。
- ・小学生のうちから夜遅く長時間にわたって学習していることに驚いた。
- ・木浦大学の先生、生徒さんの日本語の堪能さに敬服した。
- ・都市部では教育環境が充実しているので、国が地方にお金をかけることによって公平性を保っている姿勢は、日本の過疎地域の学校において見習うべき点である。
- ・国のバックアップを受けての教育環境の改善に驚いた。
- ・学力主義の代償として、自殺者や不満足者の問題に対して何とか方向転換を模索している事も印象深かった。
- ・各教室への電子黒板の導入など、先進のICT活用に心底驚かされた。

○韓国について

- ・ エネルギッシュに前進する国、穏やかにささやかな幸せを求めている国だと感じた。
- ・ 日本統治時代の日本家屋や建物を保存のために頑張っている人々の姿に感動した。

○韓国人の国民性について

- ・ 日本人は「相手に嫌な思いをさせない」という思いやり、韓国人は「相手を喜ばせたい」という思いやりで表現方法は違うものの、互いを思いやる気持ちは共通していると感じた。
- ・ 韓国の方の温かさを肌で感じる事ができた。
- ・ みんな親切な対応で、献身的に動いてくれて感謝している。
- ・ 木浦の方々が消すことのできない過去を見つめ受入れ、日帝時代の建物の歴史的教育資料としての価値を認め、保存するという姿勢と寛容さに感動した。
- ・ 情が深く、親切で友好的である。
- ・ 礼儀正しく、温厚で実直な人が多いと感じた。
- ・ 学生でさえも、自己の信じる所や考えを同道と主張する姿勢に驚きと感銘を受けた。
- ・ 良いものは良いと言えるところが、韓国の方のおもてなし精神の源だと思った。

○文化について

- ・ この研修のすべての人との出会い、韓国の歴史と文化に感謝したい。

○その他

- ・ 互いを高め合う協調性が築かれ、続くよう関心を持つ事が大切だと思った。
- ・ 歴史の事実をありのままに受入れ、理解し、過去を掘り返すのではなく未来を築いていくことを大切にしたいと感じた。
- ・ 今後の日韓の平和を願う。
- ・ 日本、韓国それぞれにイデオロギーがあり、お互いの理解が必要だと感じた。
- ・ 言葉が通じなくても、お互いを見つめ、お互いの言葉に耳を傾け、お互いを知ろうとする行為が大切だということ。
- ・ 平和の尊さを実感し、平和を守っていくために自分ができることを考えたい。
- ・ ニュースなどのメディアを見ただけで、本当の韓国の姿を知ることはできないと改めて痛感した。
- ・ 音楽や芸能人、美容などの表面的な部分で韓国を知っている日本人が多いからこそ、もう一歩もう十歩踏み込んで両国の歴史問題について勉強し、お互いを理解することが必要だと感じた。
- ・ 歴史は存在し、今につながっているということ。
- ・ 一人一人が理解し合い、仲を深めていけば国と国とのつながりも深めていけると感じた。
- ・ 今後も両国の視点から事実や思いに目を向け、理解を深め、伝えていき日韓友好関係の担い手の一人として努めていきたい。
- ・ 互いの良さを理解し、尊重し合うことの大切さを改めて感じた。
- ・ 互いを理解しようと努めることの大切さと、人を思い故郷を思う気持ちが国際交流の懸け橋になると感じた。
- ・ 先入観や一面的な見方で相手国を判断している限り、真の理解は生まれないということを改めて感じた。
- ・ 木浦共生園の創設者の妻、田内千鶴子の活動に感銘を受け同じ日本人女性としてとても誇りに

思った。

◆自国の人に伝えたいこと

- ・お互いを尊重し、理解し合うことが大切だということ。
- ・韓国を知ることとは日本を知ること、韓国人を知ることとは自分を知ることである。
- ・韓国の学生の学校生活の様子を伝えたい。
- ・自分のできることは少ないかもしれないが、この研修を通じて自分が感じたことを周りの人に少しずつ伝えていきたい。
- ・報道やイメージに踊らされず、自分の目で見て聞いてほしい。
- ・世界には沢山の国があり、日本はそれらの国とつながっていて、互いのよさや違いを理解し尊重し合うことの大切さと素晴らしさを伝えていきたい。
- ・表面的にみる韓国には日本と異なる点も多いが、本質的には同じだと伝えたい。
- ・海外で多くのことを体験し、海外に友人を増やし視野を広げることが国際社会における日本の地位を支え、国際貢献にもつながるということ。
- ・この研修で出会った韓国人の温かさを一人でも多くの人に伝えたい。